

## フロア・モッピング・システムの取り扱いについて

1. プレーヤーの安全とゲーム展開でのスムーズな流れを確保し、プレーヤーによるフロアモッピングの負担を軽減することを目的にこのシステムを今大会は採用する。
2. モッパーの位置と人数  
登録選手以外の選手、最大2名まで配置することができる。モッパーが1名の場合、記録席と監督席の間に位置する。2名の場合は前記の位置1名と、ウォームアップエリアとベンチの間に1名位置することができる。
3. モッパーに必要な用具とその配置  
モッパーに必要なタオルについては、各チームで用意する。柄付きモップは、各コートに用意される。
4. モッパーの役割  
タイムアウト中およびセット間のモッピングを行う。(まずフロントゾーンを往復して、コート全体とサービスゾーンを拭く)  
ゲーム中、ラリーとラリーの間のモッピングを行う。ラリーの終わりを告げるレフェリーの吹笛までに、飛び出す姿勢をとる。ゲーム中、コート内を注視、汗が落ちたりぬれたりしたところをチェックして、ラリー終了時直ちにその場所に疾走し、ぬれたところを拭い去り、疾走して定位置に戻る。飛び出してからコートを離れるまでの間は8秒以内を厳守する。
5. モッピングに関する注意事項
  - ◎モッピングの場所は、モッパー自身の判断に基づいて決定し、モッピングを実行する。決して、プレーヤーの要請に依ってはならない。
  - ◎プレーヤーは、モッピングを要求する権利はなく通常の場合、レフェリーもコントロールしないが、非常時に際してはセカンドレフェリーが指示できる。
  - ◎プレーヤーは、自分のタオルで、ゲーム中自由にフロアを拭くことができる。
  - ◎モッパーは登録選手及びチームスタッフと明らかに違う服装でなければならない。
  - ◎タイムアウトおよびセット間のチームミーティング、公式練習には参加できない
  - ◎クイックモッパーの任務は、セットごとにモッパーの配置を換えて負担を平均化することもできる。

## 「給水のためのタイムアウト」の取り扱いについて

熱中症予防の観点から、(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部における「給水のためのタイムアウト」を採用し、次のように取り扱うこととする。

- 1 各セット(第3セットを含む)において、リードするチームが13点に達したとき、30秒間の給水のためのタイムアウト(以下WTO)が自動的に適用される。その際、副審が吹笛をし、コートを退くよう促し計時をする。ハンドシグナルは示さない。
- 2 このWTOは給水を目的とするものであり、その間選手はウォームアップエリア付近で給水を行う。またチームスタッフはベンチに座っていることとする。  
(給水を行うか否かの判断は、選手本人の意思による。給水を行わなくても同エリアにとどまること。控えの選手も同様である。)
- 3 第3セットは、13点でチェンジコートをした後に引き続きWTOとなる。その際、主審側を通過してコートを移動したチームの最後尾の選手がベンチ側のサイドラインを通過した時点で、副審が吹笛をし、計時を始める。
- 4 正規の中断の要求やリベロリプレイスメントよりもWTOを優先する。正規の中断やリベロリプレイスメントを行う場合は、WTOの後にその手続きをする。